

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年10月15日
【四半期会計期間】	第148期第2四半期（自平成25年6月1日至平成25年8月31日）
【会社名】	松竹株式会社
【英訳名】	Shochiku Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	取締役社長 迫本 淳一
【本店の所在の場所】	東京都中央区築地四丁目1番1号
【電話番号】	03(5550)1552
【事務連絡者氏名】	執行役員経理部長 岩崎 敏久
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区築地四丁目1番1号
【電話番号】	03(5550)1552
【事務連絡者氏名】	執行役員経理部長 岩崎 敏久
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 証券会員制法人福岡証券取引所 （福岡市中央区天神二丁目14番2号） 証券会員制法人札幌証券取引所 （札幌市中央区南一条西五丁目14番地の1）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第147期 第2四半期 連結累計期間	第148期 第2四半期 連結累計期間	第147期
会計期間	自平成24年3月1日 至平成24年8月31日	自平成25年3月1日 至平成25年8月31日	自平成24年3月1日 至平成25年2月28日
売上高(千円)	38,991,437	46,315,128	78,600,885
経常利益(千円)	1,229,119	4,687,143	1,530,731
四半期(当期)純利益(千円)	1,009,228	2,957,952	1,001,751
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	360,965	4,061,224	2,392,407
純資産額(千円)	64,218,526	69,869,716	66,240,149
総資産額(千円)	173,662,464	202,697,132	203,026,596
1株当たり四半期(当期)純利益 金額(円)	7.35	21.53	7.29
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	36.95	34.46	32.61
営業活動による キャッシュ・フロー(千円)	5,057,358	9,956,617	7,939,407
投資活動による キャッシュ・フロー(千円)	4,061,787	4,294,331	21,050,166
財務活動による キャッシュ・フロー(千円)	1,280,923	6,961,525	21,772,400
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高(千円)	13,796,066	18,881,975	20,181,214

回次	第147期 第2四半期 連結会計期間	第148期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自平成24年6月1日 至平成24年8月31日	自平成25年6月1日 至平成25年8月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	9.30	13.17

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移について記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当企業グループ(当社及び当社の関係会社、以下は同じ。)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中における将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において、当企業グループが判断したものであります。

(1)業績

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、輸出の持ち直し、雇用情勢の改善、企業による設備投資の増加、デフレ状況の緩和等により緩やかに景気回復へ向かう一方、欧州の財政問題や新興国経済停滞等、依然不透明な状況のまま推移しました。

このような状況下、当企業グループはより一層の経営の効率化を図り、積極的な営業活動を展開しました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間は、売上高46,315百万円(前年同期比18.8%増)、営業利益5,552百万円(同182.8%増)、経常利益4,687百万円(同281.3%増)となり、特別損失31百万円を計上し、四半期純利益は2,957百万円(同193.1%増)となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

(映像関連事業)

映像関連事業におきましては、邦画6本、洋画3本、アニメ1本、シネマ歌舞伎、METライブビューイングとバラエティに富んだ作品を公開しました。春休みに公開した「ひまわりと子犬の7日間」は厳しい結果となりましたが、ゴールデンウィークに公開した「舟を編む」は作品評価も高く、堅調に推移しました。また、若年層の強い支持を得た「クロユリ団地」とシニア層に支持された歴史大作「終戦のエンペラー」はヒット作品となりました。その他、ODS(非映画デジタルコンテンツ)作品として「宇宙戦艦ヤマト2199 第五章・第六章・第七章」、「機動戦士ガンダムUC episode6」を公開し高稼働しました。

興行は、「風立ちぬ」「モンスターズ・ユニバーシティ」「真夏の方程式」等をはじめ、邦画、洋画、アニメーション、ODS等、幅広いラインナップを提供しました。

テレビ制作は、シリーズ企画「赤かぶ検事奮戦記5」「司法教官 穂高美子3」「天才刑事 野呂盆六」、水谷豊主演時代劇スペシャル「だまし系歌麿」、北大路欣也主演「剣客商売」第二作目、木下恵介生誕100年プロジェクト「二十四の瞳」、歌舞伎界を舞台にした連続ドラマ「びんとこな」(制作協力)、CS・BS放送局の時代劇等を受注制作しました。

映像ソフト、テレビ放映権販売、海外向け作品販売等は堅調に推移しました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は24,032百万円(前年同期比5.0%増)、セグメント利益は1,242百万円(同6.0%減)となりました。

(演劇事業)

演劇事業におきましては、歌舞伎座は、4月に新開場して一年間に亘る柿葺落興行が始まり、当代最高の俳優たちによる豪華な舞台がお客様を魅了して大盛況を続けました。4～6月の3ヶ月は三部制興行が賑わい、7月からは若手花形俳優中心の舞台が評判を呼びました。また、新開場に先立って行われた歌舞伎俳優によるパレード「GINZA花道」や開場式などが広く報道されて世間の注目を集め、宣伝効果に一役買いました。

新橋演舞場は、歌舞伎座の新開場に伴い、本来の一般演劇中心の劇場として、「滝沢演舞城2013」や里見浩太郎との共演による「舟木一夫特別公演」、藤山直美主演「さくら橋」などが評判を呼びました。

大阪松竹座は、3月・8月は関西ジャニーズJr.公演で安定した収益を上げ、4月はOSK日本歌劇団が「レビュー春のおどり」で劇団91年目に入りました。5月は「ザ・オダサク」が話題を集め、恒例の「七月大歌舞伎」は新たな演目で魅了しました。

南座は、3月の「松竹新喜劇」は若手中心の上演で新たな動員に繋げ、3～4月の「歌舞伎ミュージアム」は舞台機構をお客様に実体験していただき歌舞伎の裾野を広げる取り組みとなりました。「五月花形歌舞伎」では復活狂言「鎌髭」、夜の部の「伊達の十役」が好評を博し収益に貢献しました。

その他の松竹公演は、ル テアトル銀座では市川海老蔵らによる「三月花形歌舞伎」、サンシャイン劇場では7月に「熱海殺人事件」が盛況となりました。三越劇場では6月に新派の名作「新釈 金色夜叉」が高い評価を得ました。巡業では、「第二十九回四国こんびら歌舞伎大芝居」、公文協東コースでの四代目市川猿之助襲名披露、公文協中央コースでの三代目中村又五郎襲名披露が好評を博しました。シネマ歌舞伎、M E Tライブビューイング、その他演劇関連事業は、堅調に推移しました。歌舞伎座ギャラリーは、4月に歌舞伎座タワー5階に伝統文化の普及・世界への発信を目的とした文化施設「歌舞伎座ギャラリー」がオープンし、開場以来、日本全国から多くの来場者を集めました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は15,516百万円（前年同期比50.3%増）、セグメント利益は4,112百万円（前年同期はセグメント利益212百万円）となりました。

（不動産事業）

不動産賃貸は、東劇ビル、築地松竹ビル、新宿松竹会館、大船の松竹ショッピングセンター、新木場倉庫、有楽町センタービル（有楽町マリオン）、松竹倶楽部ビルが順調に推移し、安定収入に貢献しました。各ビルとも効率的運営、経費削減に努めることにより、計画通りの利益を確保しました。歌舞伎座タワーのリーシングにつきましては、フロア分割賃貸の実施等、テナントニーズを分析し更なる営業に注力した結果、複数のテナントの誘致に至りました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は4,046百万円（前年同期比21.5%増）、セグメント利益は1,196百万円（同28.1%減）となりました。

（その他）

プログラム・キャラクター商品は、コアファンを有するアニメ「劇場版 銀魂 完結篇 万事屋よ永遠なれ」「宇宙戦艦ヤマト2199 第五章・第六章」「機動戦士ガンダムUC episode6」等が好成績で、実写邦画では辞書をつくる人々を描いた感動作「舟を編む」等が好評を得ました。

イベント事業は、東京・大阪・京都で実施した「アルプスの少女ハイジとスイス展」では通常の催事企画販売に加え、会場図録等の自社で開発したオリジナル商品も販売しました。4月に新開場した歌舞伎座の賑わいが「松竹歌舞伎屋本舗」をはじめ歌舞伎関連物販の活況に繋がり収益に貢献しました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は2,720百万円（前年同期比11.5%増）、セグメント利益は280百万円（同297.5%増）となりました。

(2) 財政状態

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ329百万円減少し、202,697百万円となりました。これは主に有価証券及び投資有価証券が増加したものの、現金及び預金の減少等によるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ3,959百万円減少し、132,827百万円となりました。これは主に長期借入金及び長期借入金（責任財産限定）が増加したものの、1年内返済予定の長期借入金（責任財産限定）の減少等によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ3,629百万円増加し、69,869百万円となりました。これは主に利益剰余金及びその他有価証券評価差額金の増加等によるものであります。

(3) キャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は18,881百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,299百万円の減少となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は9,956百万円（前年同期比96.9%増）となりました。これは主として、税金等調整前四半期純利益4,655百万円、減価償却費2,472百万円の計上等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は4,294百万円（前年同期比5.7%増）となりました。これは主として、現金及び預金（責任財産限定対象）の増加2,156百万円、有形固定資産の取得による支出1,372百万円等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は6,961百万円（前年同期に得られた資金は1,280百万円）となりました。これは主として、長期借入れ（責任財産限定）による収入19,700百万円があったものの、長期借入金（責任財産限定）の返済による支出28,070百万円等によるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当企業グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	300,000,000
計	300,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (平成25年8月31日)	提出日現在発行数(株) (平成25年10月15日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	139,378,578	139,378,578	東京証券取引所 市場第一部 福岡証券取引所 札幌証券取引所	単元株式数 1,000株
計	139,378,578	139,378,578		

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数(株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成25年6月1日～ 平成25年8月31日	-	139,378,578	-	33,018,656	-	27,935,563

(6) 【大株主の状況】

平成25年8月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数 に対する所有株式 数の割合(%)
株式会社歌舞伎座	東京都中央区銀座四丁目12番15号	4,802	3.44
株式会社みずほ銀行 (常任代理人 資産管理サービス信託銀行株式会社)	東京都千代田区丸の内一丁目3番3号 (東京都中央区晴海一丁目8番12号晴海アイランド トリトンスクエアオフィスタワーZ棟)	4,500	3.22
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内二丁目7番1号	4,344	3.11
セコム株式会社	東京都渋谷区神宮前一丁目5番1号	3,700	2.65
三井物産株式会社 (常任代理人 資産管理サービス信託銀行株式会社)	東京都千代田区大手町一丁目2番1号 (東京都中央区晴海一丁目8番12号晴海アイランド トリトンスクエアオフィスタワーZ棟)	3,700	2.65
清水建設株式会社	東京都中央区京橋二丁目16番1号	3,690	2.64
株式会社大林組	東京都港区港南二丁目15番2号	3,600	2.58
西松建設株式会社	東京都港区虎ノ門一丁目20番10号	3,288	2.35
大成建設株式会社	東京都新宿区西新宿一丁目25番1号	3,104	2.22
株式会社TBSテレビ	東京都港区赤坂五丁目3番6号	2,542	1.82
計	-	37,270	26.74

(7)【議決権の状況】
【発行済株式】

平成25年8月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,107,000	-	-
	(相互保有株式) 普通株式 148,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 136,910,000	136,910	-
単元未満株式	普通株式 1,213,578	-	-
発行済株式総数	139,378,578	-	-
総株主の議決権	-	136,910	-

(注)「単元未満株式」の中には、当社所有の自己株式57株が含まれております。

【自己株式等】

平成25年8月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(自己保有株式) 松竹株式会社	東京都中央区築地 四丁目1番1号	1,107,000	-	1,107,000	0.79
(相互保有株式) 松竹音楽出版株式会社	同上	148,000	-	148,000	0.11
計	-	1,255,000	-	1,255,000	0.90

2【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は次のとおりです。

役職の異動

新役名	新職名	旧役名	旧職名	氏名	異動年月日
取締役	管理本部 経理部門 財務部門 グループ企画 室担当 経営情報企画部 門副担当	取締役	管理本部 経理部門 財務部門 グループ企画 室担当 経営情報企画部 長	井手 良樹	平成25年 6月27日
常務取締役	事業本部長 事業部門 不動産部門 担当	常務取締役	事業本部長 事業部門 不動産部門 歌舞伎座開発推 進室担当	武中 雅人	平成25年 7月26日
常務取締役	映像本部長 映像統括部門 メディア事業部 門担当 メディア事業部 長	常務取締役	映像本部長 映像統括部門 映像ライツ部門 映像商品部門 担当	大角 正	平成25年 8月26日

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成25年6月1日から平成25年8月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成25年3月1日から平成25年8月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新創監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	20,196,343	14,886,009
現金及び預金(責任財産限定対象)	6,491,031	8,647,511
信託預金(責任財産限定対象)	3,349,428	3,932,742
受取手形及び売掛金	6,497,384	7,068,303
有価証券	300,000	4,300,000
商品及び製品	1,466,690	1,316,410
仕掛品	1,158,510	1,447,729
原材料及び貯蔵品	90,144	87,065
その他	5,118,626	3,266,875
貸倒引当金	19,688	17,583
流動資産合計	44,648,471	44,935,064
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	20,639,667	20,202,713
信託建物(責任財産限定対象)(純額)	35,233,414	34,574,203
設備(純額)	13,243,792	12,523,949
土地	23,610,620	23,617,724
信託土地(責任財産限定対象)	18,751,834	18,751,834
その他(純額)	5,689,336	5,576,996
有形固定資産合計	117,168,665	115,247,423
無形固定資産		
のれん	4,523	3,095
その他	2,602,016	2,690,170
無形固定資産合計	2,606,540	2,693,265
投資その他の資産		
投資有価証券	14,450,276	16,174,097
長期前払費用(責任財産限定対象)	14,371,257	14,224,852
その他	9,965,166	9,609,895
貸倒引当金	186,425	187,468
投資その他の資産合計	38,600,274	39,821,377
固定資産合計	158,375,479	157,762,065
繰延資産	2,644	1
資産合計	203,026,596	202,697,132

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年8月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,386,860	7,386,963
短期借入金	6,100,000	6,100,000
1年内返済予定の長期借入金	4,734,871	4,269,724
1年内返済予定の長期借入金(責任財産限定)	27,895,000	700,000
未払法人税等	332,289	1,256,762
賞与引当金	392,600	298,163
その他	8,303,526	7,164,892
流動負債合計	54,145,149	27,176,505
固定負債		
社債	1,100,000	1,100,000
社債(責任財産限定)	10,000,000	10,000,000
長期借入金	31,167,750	33,616,077
長期借入金(責任財産限定)	25,000,000	43,825,000
退職給付引当金	1,593,865	1,593,849
役員退職慰労引当金	664,886	656,656
資産除去債務	1,313,165	1,326,619
その他	11,801,630	13,532,708
固定負債合計	82,641,297	105,650,910
負債合計	136,786,447	132,827,416
純資産の部		
株主資本		
資本金	33,018,656	33,018,656
資本剰余金	30,066,722	30,066,804
利益剰余金	2,330,722	4,874,251
自己株式	1,288,612	1,305,927
株主資本合計	64,127,489	66,653,784
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,073,268	3,189,218
その他の包括利益累計額合計	2,073,268	3,189,218
少数株主持分	39,391	26,713
純資産合計	66,240,149	69,869,716
負債純資産合計	203,026,596	202,697,132

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年3月1日 至 平成24年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年3月1日 至 平成25年8月31日)
売上高	38,991,437	46,315,128
売上原価	22,508,978	25,438,142
売上総利益	16,482,459	20,876,986
販売費及び一般管理費	14,518,817	15,324,457
営業利益	1,963,641	5,552,528
営業外収益		
受取利息	28,146	26,610
受取配当金	125,581	167,590
負ののれん償却額	2,282	2,282
持分法による投資利益	10,553	6,483
還付消費税等	-	29,331
その他	72,862	93,861
営業外収益合計	239,426	326,159
営業外費用		
支払利息	655,300	889,884
借入手数料	72,664	271,279
その他	245,984	30,380
営業外費用合計	973,949	1,191,544
経常利益	1,229,119	4,687,143
特別利益		
固定資産売却益	53,838	-
特別利益合計	53,838	-
特別損失		
固定資産除却損	8,597	31,436
投資有価証券売却損	6,550	-
投資有価証券評価損	92,159	-
特別損失合計	107,307	31,436
税金等調整前四半期純利益	1,175,650	4,655,707
法人税、住民税及び事業税	114,553	1,134,413
法人税等調整額	67,237	576,020
法人税等合計	181,791	1,710,433
少数株主損益調整前四半期純利益	993,859	2,945,274
少数株主損失()	15,369	12,678
四半期純利益	1,009,228	2,957,952

【四半期連結包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年8月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	993,859	2,945,274
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	628,132	1,114,506
持分法適用会社に対する持分相当額	4,761	1,443
その他の包括利益合計	632,893	1,115,950
四半期包括利益	360,965	4,061,224
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	376,434	4,073,902
少数株主に係る四半期包括利益	15,468	12,678

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,175,650	4,655,707
減価償却費	2,046,121	2,472,946
のれん償却額	2,282	853
賞与引当金の増減額(は減少)	97,116	94,437
退職給付引当金の増減額(は減少)	1,568	15
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	57,471	8,229
貸倒引当金の増減額(は減少)	12,888	1,061
受取利息及び受取配当金	153,727	194,200
支払利息	655,300	889,884
持分法による投資損益(は益)	10,553	6,483
固定資産売却損益(は益)	53,838	-
固定資産除却損	8,597	31,436
投資有価証券売却及び評価損益(は益)	98,709	-
売上債権の増減額(は増加)	557,468	570,919
たな卸資産の増減額(は増加)	406,973	135,860
仕入債務の増減額(は減少)	219,584	1,000,102
その他	1,319,838	2,577,480
小計	5,659,628	10,615,494
利息及び配当金の受取額	160,708	199,899
利息の支払額	660,440	927,026
法人税等の支払額	314,625	162,068
法人税等の還付額	212,086	230,317
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,057,358	9,956,617
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	183,757	272,662
定期預金の払戻による収入	285,303	283,757
現金及び預金(責任財産限定対象)の増減額 (は増加)	252,200	2,156,479
信託預金(責任財産限定対象)の増減額(は 増加)	68,174	583,314
有形固定資産の取得による支出	3,563,530	1,372,662
有形固定資産の売却による収入	140,085	-
無形固定資産の取得による支出	201,265	231,342
投資有価証券の取得による支出	360,051	40,616
投資有価証券の売却による収入	16,500	-
貸付けによる支出	176	45,100
貸付金の回収による収入	143,954	119,235
その他	18,474	4,854
投資活動によるキャッシュ・フロー	4,061,787	4,294,331

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年8月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（は減少）	1,150,000	-
長期借入れによる収入	1,580,697	3,350,000
長期借入金の返済による支出	3,550,141	1,373,845
長期借入れ（責任財産限定）による収入	3,000,000	19,700,000
長期借入金（責任財産限定）の返済による支出	385,000	28,070,000
リース債務の返済による支出	92,003	137,205
自己株式の取得による支出	8,192	17,800
自己株式の売却による収入	-	613
配当金の支払額	413,582	413,288
少数株主への配当金の支払額	854	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,280,923	6,961,525
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	2,276,493	1,299,239
現金及び現金同等物の期首残高	11,519,572	20,181,214
現金及び現金同等物の四半期末残高	13,796,066	18,881,975

【会計方針の変更等】

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

一部の連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成25年3月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

なお、この変更による当第2四半期連結累計期間の損益への影響は軽微であります。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

保証債務

従業員の金融機関からの借入に対し、下記のとおり債務の保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成25年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年8月31日)
住宅資金他	59,069千円	48,635千円

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年8月31日)
人件費	4,486,381千円	4,606,961千円
貸倒引当金繰入額	6,913	7,901
賞与引当金繰入額	273,301	258,808
退職給付費用	277,667	201,403
役員退職慰労引当金繰入額	47,961	41,980

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年8月31日)
現金及び預金勘定	13,721,198千円	14,886,009千円
取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資(有価証券)	300,000	4,300,000
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	225,131	304,034
現金及び現金同等物	13,796,066	18,881,975

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成24年3月1日至平成24年8月31日)

配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年5月30日 定時株主総会	普通株式	414,934	3	平成24年2月29日	平成24年5月31日	利益剰余金

(注)配当金の総額には、連結子会社が所有する自己株式に係る配当金が含まれております。控除後の金額は414,490千円であります。

当第2四半期連結累計期間(自平成25年3月1日至平成25年8月31日)

配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年5月28日 定時株主総会	普通株式	414,867	3	平成25年2月28日	平成25年5月29日	利益剰余金

(注)配当金の総額には、連結子会社が所有する自己株式に係る配当金が含まれております。控除後の金額は414,423千円であります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成24年3月1日 至平成24年8月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	映像関連事業 (千円)	演劇事業 (千円)	不動産事業 (千円)	その他 (千円) (注)1	合計 (千円)	調整額 (千円) (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (千円) (注)3
売上高							
外部顧客への売上高	22,896,682	10,326,686	3,328,955	2,439,113	38,991,437	-	38,991,437
セグメント間の内部売上高又は振替高	26,074	53,860	860,350	1,768,262	2,708,548	2,708,548	-
計	22,922,757	10,380,546	4,189,306	4,207,375	41,699,985	2,708,548	38,991,437
セグメント利益	1,321,911	212,576	1,664,641	70,578	3,269,708	1,306,066	1,963,641

- (注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、舞台衣裳の製作・販売・賃貸、プログラムの製作・販売、キャラクター商品の企画・販売、演劇舞台の大道具・小道具・音響の製作・販売、音楽著作権の利用開発・許諾、不動産の管理・清掃等であります。
2. セグメント利益の調整額 1,306,066千円には、セグメント間取引消去16,516千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 1,322,582千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の総務部門等管理部門に係る経費であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自平成25年3月1日 至平成25年8月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	映像関連事業 (千円)	演劇事業 (千円)	不動産事業 (千円)	その他 (千円) (注)1	合計 (千円)	調整額 (千円) (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (千円) (注)3
売上高							
外部顧客への売上高	24,032,067	15,516,716	4,046,289	2,720,054	46,315,128	-	46,315,128
セグメント間の内部売上高又は振替高	48,106	73,619	839,009	2,214,355	3,175,091	3,175,091	-
計	24,080,174	15,590,336	4,885,299	4,934,410	49,490,220	3,175,091	46,315,128
セグメント利益	1,242,775	4,112,039	1,196,941	280,521	6,832,278	1,279,749	5,552,528

- (注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、舞台衣裳の製作・販売・賃貸、プログラムの製作・販売、キャラクター商品の企画・販売、演劇舞台の大道具・小道具・音響の製作・販売、音楽著作権の利用開発・許諾、不動産の管理・清掃等であります。
2. セグメント利益の調整額 1,279,749千円には、セグメント間取引消去20,608千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 1,300,358千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の総務部門等管理部門に係る経費であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年8月31日)
1株当たり四半期純利益金額	7円35銭	21円53銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	1,009,228	2,957,952
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	1,009,228	2,957,952
普通株式の期中平均株式数(千株)	137,385	137,360

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年10月10日

松竹株式会社

取締役会 御中

新創監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 柳澤 義一 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 坂下 貴之 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている松竹株式会社の平成25年3月1日から平成26年2月28日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成25年6月1日から平成25年8月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成25年3月1日から平成25年8月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、松竹株式会社及び連結子会社の平成25年8月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれておりません。